

名護市長選挙 稲嶺さん勝利 辺野古新基地は断念を

再選された稲嶺進名護市長



19日におこなわれた名護市長選挙で、「海にも陸にも新しい基地はつくらせない」との政策をかかげた稲嶺進市長が再選されました。

自民党・安倍内閣は昨年未から、名護市辺野古に何が何でも新しい基地をつくらせよう、自民党沖縄県連や仲井真沖縄県知事に恫喝と圧力を加え、12月27日には仲井真県知事に「辺野古埋め立て承認」を出させました。

名護市長選挙においても、石破自民党幹事長らが現地に入るとともに、業界団体などを締め付けて稲嶺市政の転覆をはかろうとなりふりかまわぬ攻撃と介入を強めました。

しかし、名護市民はこの攻撃に屈せず、「基地によらない自立したまちづくり」、再編交付金によらず市民生活や教育を充実する稲嶺市政の継続、発展の道を選択したのです。稲嶺候補は、基地受入れは子ども、孫の世代にまで禍根を残すと明確に拒否し、基地の移設に反対する「流れを後戻りさせてはならない」と訴えました。

基地建設を許さない国民世論を大きく

自民党の石破幹事長は12日、「基地は政府が決める」と述べ、地元住民や自治体首長の意見は無視するファッショ的姿勢を示しています。また、菅官房長官は14日、辺野古埋め立てについて名護市長選挙の結果に左右されず実施すると発言しています。

しかし、政府の提出した埋め立て申請書によっても、作業ヤード設置のための漁港使用や飛行場施設への燃料タンク設置などについては市長の許可が必要とされており、名護市長の許可なしには基地建設は不可能です。

新基地建設を許さない国民世論を高めましょう。

宇都宮けんじさんで 憲法と平和を守る都政を

2月9日におこなわれる東京都知事選挙に日本弁護士連合会前会長の宇都宮けんじさんが立候補を表明しています。

宇都宮さんは、「働きやすく、暮らしやすい東京」「環境重視、防災・減災重視」「原発のない社会と経済を東京から」「子どもたちが生き生きと学べる学校」などの基本政策を掲げています。

そして、「安倍政権の暴走をストップし、憲法を守り、東京からアジアに平和を発信します」と訴えています。

秘密保護法の強行や原発再稼働などの安倍政権の暴走を都民の手で止め、誰もが希望を持って暮らせる東京をつくっていく絶好のチャンスが訪れました。

宇都宮けんじさんと一緒に東京を変えましょう。東京から日本を変えましょう。